

考古学研究室報告

第45集

ナガラ原東貝塚6

2009年度 考古学研究室の足跡

2010

熊本大学文学部考古学研究室

表紙写真：ナガラ原東貝塚南側の海岸から本部半島を望む
裏表紙写真：貝符

序

本夏、7年のブランクを経て今年伊江島での調査を再開した。しかし発掘区の設定には肝を冷やした。道路の数カ所に打ち込んでいた原点復元のための複数の杭が、道路工事のためにすべて抜かれてしまっていたからである。杉井准教授率いる先発隊3名の決死の作業により、セメントの塀にのこっていた印から原点を求め、もとのグリッドが復元された。わずかな誤差で見事に再現されたグリッドの断面壁をみて、その技術に頭を下げた。

夏の伊江島には野菜が少なく、食べ物の物価は熊本より高い。昨年在天草での実習と同じつもりでいた会計係の女子の口から1日の食費を聞いて、まかないを頼んだ島のご婦人二人はこれではやってゆけぬと頭をかかえられた。どこでどう伝わったか、次の日の朝から島のあちこちからたくさんの魚や冬瓜、紫芋、もずく、パパイヤ、果ては高価なドラゴンフルーツの差し入れが続いた。教育委員会は宴会料理の余剰を鍋ごと届けてくれた。女教員のもとで純朴な学生が酷使されているという話が島にできあがってしまったらしい。来年度は食費を増額しよう。

伊江島ではさいわいに台風にも遭わず、予定通りの作業を終えることができた。発掘調査を了解してくださった地権者の安里誠夫さんと玉城盛一さん、伊江村教育委員会、川平区公民館、調査にお力添えをくださった伊江村川平区の皆さん、沖縄県立埋蔵文化財センターに厚く御礼申し上げます。

熊本の大学がなぜ琉球列島の調査をするのかと思う人は少なくない。一つには多様な文化を多様な方法で学ぶという本研究室創設以来の方針によるものであり、他には奄美・沖縄を大事なフィールドにしてきたという伝統による。学生たちは今回の発掘調査を通して、砂丘の層位の難しさや層位学の大事さを感じ取ったことと思うが、それ以上に九州とはことなる生活文化に身をおいて、異なる文化に心が震える体験をいただけるか？ 皆に聞いてみたいことの一つである。

2010年2月

木下尚子

ナガラ原東貝塚 6



現地説明会風景

例 言

- (1) 本書は沖縄県国頭郡伊江村字川平1061-1・1062-1・1071-1番地に所在するナガラ原東貝塚の発掘調査報告書である。
- (2) 調査期間は2009年8月15日から29日までの15日間である。
- (3) 調査は熊本大学文学部考古学研究室を主体とし、伊江村教育委員会・沖縄県教育庁文化課の協力を得て実施した。調査には科学研究費補助金（基盤研究（A）21242027 代表者：木下尚子）の一部を使用した。
- (4) 調査担当者は木下尚子（熊本大学文学部教授）と高松あゆみ・弘中正芳（同社会文化科学研究科大学院生）である。
- (5) ナガラ原東貝塚はこれまでに7度にわたって調査されており、以下にその調査主体と調査年月を記す。
伊江村教育委員会による調査
一次調査 1997年8月
二次調査 1998年11～12月
熊本大学文学部考古学研究室による調査
第1次調査 1998年7月
第2次調査 1999年7月
第3次調査 2000年7～8月
第4次調査 2001年7月
第5次調査 2002年8月
- (6) 本書におけるレベル高はすべて海拔をあらわし、方位は真北をあらわす。
- (7) 報告書抄録に示した北緯と東経は、調査基準点P0の世界測地系（15系）による数値である。
- (8) 調査および合宿、整理作業の実施にあたっては、以下の機関、諸氏から協力と援助を賜った（敬称略）。
伊江村教育委員会、沖縄県立埋蔵文化財センター、川平区公民館、安里誠夫、玉城盛一、松本周作（大成エンジニアリング）、宮城愛美、宮里豊信、山城道代、山城康男
- (9) 貝類遺体、脊椎動物遺体、植物遺存体の同定・分析は、黒住耐二（千葉県立中央博物館）、樋泉岳二（早稲田大学）、高宮広土（札幌大学）の各先生による。
- (10) 石材の鑑定は神谷厚昭先生（金城町石畳地質研究所）による。
- (11) 調査方法・遺物等について、(9)、(10)に加え以下の方々からご教示を賜った（敬称略）。
安座間充（金武町教育委員会）、岸本義彦（沖縄石器研究会）、黒沢建明・宮城弘樹（今帰仁村教育委員会）、新里亮人（伊仙町教育委員会）、新里貴之・中村直子（鹿児島大学埋蔵文化財調査室）、中村愿（北谷町教育委員会）、中山清美（奄美市教育委員会）、松田順一郎（東大阪市文化財協会）、盛本勲（沖縄県教育委員会）、山崎純男（福岡市教育委員会）
- (12) 調査参加者は以下の通りである。
木下尚子・杉井健（熊本大学教員）、山野ケン陽次郎（同社会文化科学研究科博士後期課程1年生）、高松あゆみ・弘中正芳（同社会文化科学研究科博士前期課程1年生）、赤崎恵・汐除あずさ・柴田亮・田中麻里子・中原有彩・松尾真太郎（同文学部3年生）、内海充貴・甲斐郁・金子真夕・塩谷和音・東佳苗・平木琢・宮田翔太郎・安田未来（同文学部2年生）
- (13) 本書の監修は木下尚子、編集は高松あゆみ・弘中正芳が担当した。執筆分担については執筆者名を各文末に示した。

本文目次

一	位置と環境	1
二	調査経過	3
三	調査成果	6
	1. 層序	6
	2. 2003年報告のピット	6
	3. 遺物の出土状況	9
	(1) I層～IV下層（北1東1グリッド）における遺物出土状況	9
	(2) V層（北1西1グリッド）における遺物出土状況	9
	(3) シャコガイ科の合弁状況	12
	4. 出土遺物	13
	(1) 土器	13
	(2) 石器	21
	(3) 貝製品	25
	(4) 自然遺物	30
四	自然科学的分析	37
	1. 遺跡における攪乱層の貝類遺体組成は何を示すか？	37
	2. ナガラ原東貝塚の水洗選別試料より検出された脊椎動物遺体（第6報）	43
	3. ナガラ原東貝塚（2009年度）におけるフローテーションの結果	47
五	まとめ	50

図版目次

図版 1	1	遺跡発掘調査前近景（南東から）
	2	遺跡発掘調査終了時近景（南から）
図版 2	1	北1西1グリッド調査区復元状況（東から）
	2	北1東1グリッドIV下層上半部遺物出土状況（南から）
	3	北1西1グリッドV層遺物出土状況（東から）
図版 3	1	北1西1グリッド東壁土層断面（南西から）
	2	北1東1グリッド北壁土層断面（北西から）
	3	北1東1グリッド南壁土層断面（南西から）
	4	北1西1グリッド北壁土層断面（南から）
	5	北1西1グリッド南壁土層断面（北から）
図版 4	1	P2完掘状況
	2	P6完掘状況
	3	P8完掘状況
	4	北1西1グリッドII区イノシシ肩甲骨出土状況

- 図版 5 Ⅲ層出土土器
- 図版 6 Ⅳ下層出土土器・Ⅴ層出土土器
- 図版 7 出土石器
 - 1 石斧・敲き石・磨石
 - 2 台石
 - 3 クガニイシ形石器・不明石器
- 図版 8 出土貝製品
 - 1 有孔貝製品
 - 2 匙状貝製品
 - 3 ゴホウラ加工品
- 図版 9 出土貝符自然遺物
 - 1 貝符
 - 2 貝類遺体
 - 3 脊椎動物遺体

挿図目次

第1図	伊江島の位置と遺跡分布	2
第2図	調査区周辺地形および調査区位置図	4
第3図	調査区配置図および土壌サンプル採取地点位置図	5
第4図	土層断面図	7
第5図	北1西1グリッドⅤ層上面の黒色土堆積箇所平面図および断面図	8
第6図	北1西1グリッド出土黒曜石	9
第7図	土器・石器・貝製品出土状況	10
第8図	自然遺物出土位置およびシャコガイ合弁状況	10
第9図	Ⅳ下層におけるシャコガイの合弁状況	11
第10図	合弁したシャコガイどうしの位置関係	12
第11図	出土土器実測図(1)	16
第12図	出土土器実測図(2)	17
第13図	底部形態の比較	19
第14図	口唇部分類図	19
第15図	口唇部形態の比較	19
第16図	出土石器実測図(1)	22
第17図	出土石器実測図(2)	23
第18図	出土打製石鏃	24
第19図	有孔貝製品重量分布	25
第20図	出土貝製品実測図	26
第21図	出土貝符実測図	27

第22図	広田上層タイプ貝符出土遺跡分布図	28
第23図	シラナミ殻長組成	31
第24図	ヒメジャコ殻長組成	31
第25図	北1東1グリッドⅢ区北西隅の食用貝類遺体組成とその生息場所	39
第26図	北1東1グリッドⅢ区北西隅の陸産貝類遺体組成とその生息場所	39

表目次

第1表	伊江島所在の遺跡一覧表	2
第2表	調査基準点および2009年度新設点の国土座標	4
第3表	V層上面検出のピット状黒色土堆積箇所一覧表	8
第4表	出土土器観察表	15
第5表	出土土器分類・集計表	18
第6表	石器計測値一覧	22
第7表	石材鑑定一覧表	24
第8表	有孔貝製品計測値一覧表	27
第9表	広田上層タイプ貝符出土遺跡一覧	28
第10表	貝類遺体集計表	31
第11表	出土動物名および重量・骨片数	32
第12表	哺乳綱骨出土位置一覧表	33
第13表	爬虫綱骨出土位置一覧表	33
第14表	硬骨魚綱骨出土位置一覧表	33
第15表	出土脊椎動物遺体計測値表(1)	34
第16表	出土脊椎動物遺体計測値表(2)	35
第17表	出土脊椎動物遺体計測値表(3)	36
第18表	沖縄県伊江島ナガラ原東貝塚の土壌サンプルから得られた貝類遺体(1)	40
第19表	沖縄県伊江島ナガラ原東貝塚の土壌サンプルから得られた貝類遺体(2)	41
第20表	沖縄県伊江島ナガラ原東貝塚の土壌サンプルから得られた貝類遺体(3)	42
第21表	ナガラ原東貝塚2009年度採取の脊椎動物遺体分析用堆積物試料(TT09)の構成要素	44
第22表	ナガラ原東貝塚TT09における魚骨・獣骨・貝殻の包含密度と魚骨/獣骨比	44
第23表	ナガラ原東貝塚TT09より検出された脊椎動物遺体の同定結果一覧	45
第24表	ナガラ原東貝塚TT09における脊椎動物遺体の出土数	46
第25表	ナガラ原東貝塚TT09における脊椎動物遺体の組成	46
第26表	ナガラ原東貝塚フローテーション結果(2009年度)	49